

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域の

指定文化財(史跡)

ふるかわこしょうけんのはか

古川古松軒の墓

新高見梁市市
総社市
早倉矢井浅里笠
島敷掛原口庄岡
町市町市町市



場所

・総社市新本



時代

・江戸時代



指定年月日

・昭和40(1965)年
1月20日



所有

・宅源寺



し せき

この史跡について

江戸中期の地理学者の古川古松軒は、享保11(1726)年、橋本家の別家にあたる橋本護次の子として新本で生まれ、名を辰、または正辰、通称平次兵衛といました。古松軒は、自学自習で地理・歴史を学び、測量術に長じていました。諸国を周遊し、山陽・九州の紀行文『西遊雑記』、東北・蝦夷の紀行文『東遊雑記』をまとめ、地理・風俗・物産等や、一般民衆の生活状態を伝えました。

また、寛政の改革を行なった老中松平定信の信任を得て、幕府の命令により『武蔵五郡の図』、『四神地名録』を作成しました。晩年は岡田藩に帰り、岡田藩主から苗字帯刀を許されました。文化4(1807)年に亡くなり、宅源寺脇の橋本家の墓地に葬られ、「古松軒夫婦之墓」と刻まれた自然石の大きな墓石がたてられました。